

洞爺湖で国民対話

サミット前に環境をテーマに討論



鴨下環境相



福田首相



甘利経済産業相

福 田首相、甘利明経済産業相、鴨下一郎環境相、高橋はるみ道知事らが出席した内閣主催の国民対話「希望と安心の国づくり」が、4月5日洞爺湖文化センターで開かれ、出席した住民らと環境問題について熱い議論を交しました。

長崎町長を始め西胆振の各首長や道内外から一般公募で約80人が参加。

月尾嘉男東京大学名誉教授の

司会で始まった対話集会では、鴨下環境相が北極の氷の融解といった地球温暖化問題の現状を説明。またサミットが七夕の日に開幕することから、子ども達から環境について意見を短冊に書いてもらい、各国首脳に届けるプランを明らかにしました。

甘利経済産業相は、2012年度までに国内の白熱電球を電球形蛍光灯に切り替えることを言明し、太陽光パネルの新築住宅への設置やハイブリッドカーの実用化についても、2020年度を目標に現実化させたいと話しました。

福田首相は「地球温暖化は、国民全体で取組まなければならない緊急の問題だ」と挨拶し、「環境問題に取組む上で、大量生産、大量消費の考え方を変えて、よいものを大切にしていく発想を基本にすえていかなければならない」と強調しました。

会場からも、「太陽光発電住宅に補助を」「二酸化炭素削減に積極的に取組んだ団体や個人に減

税する」「自動販売機の削減などに国が強制的に取組む考えはないか」などの多くの発言が出

され、熱心な討論が続けられました。

道の駅とうや湖オープン 地場産品求めて大にぎわい

4月26日香川の国道230号

沿いに「道の駅とうや湖」がオープンし、大型連休初日とあって、行楽客や道の駅ファンらでにぎわいました。

当日は、オープンに先立って

式典が行われ、長崎町長が「高台羊蹄山麓の肥えた土地で作られたものが出品される。多くの人に可愛がられるよう努力していきたい」と挨拶。

テークカットの後、行楽客らが、市価より安い新鮮なアスパラやふきなどの山菜を買い求め、レジには長い列ができました。

食堂コーナーでは、雪蔵じゃがカレーや



レジに行列ができた「道の駅洞爺湖」

じゃがシユアイスなどが人気を呼び、オープン記念に用意したホタテ汁500人分も早々に終了し、関係者らは、好調な滑り出しに胸をなでおろしていました。